



再生した果樹園で園児がポンカン狩り ～耕作放棄地の再生に 市民グループ『アシスト』発足

■妙見保育園のポンカン狩り体験が12月18日、東鹿籠の果樹園で行われ、園児や児童クラブの子どもたち84人が大きく育ったみずみずしいポンカンを次々と収穫していきました。

この果樹園は、東鹿籠にある耕作放棄地の再生を目的として、昨年1月に発足した市民グループ『アシスト』が管理している果樹園を同保育園が借り受けたものです。『アシスト』メンバーの中村貴郎さんは「放棄地が増えていくが、少しの力で再生できる畑も多い。再生を助け収穫の楽しみを味わってもらい、枕崎の魅力を発信していきたい」と話していました。

今後は、果樹を一般に貸し出すオーナー制の導入に向けて取り組んでいくとのことでした。



拍子木を打ち 火の用心を呼びかける ～亀沢公民館の小・中学生が火の用心夜回り

■年末の防犯・防火に努め、小・中学生の交流、青少年健全育成を目的とした『火の用心』夜回りを亀沢公民館が12月28・29日に行い、小・中学生延べ42人が参加しました。

参加者は2手に分かれ、昔ながらの拍子木を打ちながら、地区内をくまなく回り、火の用心を呼びかけました。同公民館の藤田恵館長は「昔はどこ地域でも自分たちで防犯・防火に取り組んでいた。地域の人間関係の深まりと青少年の健全育成につながれば」と話していました。

NPO法人LCLの25人が全国大会へ ～全国子どもチャレンジカップ鹿児島大会

■ヒップホップダンスやエアロビクスの技術を競う『全国子どもチャレンジカップ鹿児島大会』が12月11日、薩摩川内市で開催され、NPO法人LCLの平田愛美さん(枕崎高2年)が総合優勝したほか、4部門5種目で1位を受賞する好成績を収めました。

同大会は2年に1度開催される全国大会の予選を兼ねており、今回、主に南九州地域から約250人が出場しました。NPO法人LCLからは、上位入賞した25人が平成24年に開催される全国大会への出場を決めました。

自身3度目の総合優勝を果たした平田さんは「全国大会でも総合優勝目指してがんばりたい」と意気込みを話してくれました。

※写真は各種目の1位入賞者



枕崎バレースポ少 県大会優勝の快挙 ～県スポーツ少年団バレーボール競技交歓大会

■枕崎小バレーボールスポーツ少年団が12月19日、始良市で行われた県スポーツ少年団バレーボール競技交歓大会で優勝、3月28日から三重県で行われる全国大会に出場します。12月21日、同スポーツ少年団が市役所を訪問し市長への報告を行いました。

県スポーツ少年団が主催する同大会には、県内から各地区の代表24チームが出場。キャプテンの今門璃穂さん(枕崎小6年)は「優勝の瞬間、みんなを抱き合い、嬉しくて涙が出た。全国大会でもチーム一丸となり楽しくプレーできたら」と話してくれました。



受け継がれる伝統の『そまんずし』 ～別府校区で『そまんずしつくり大会』

■小・中学生と高齢者とのふれあい交流を目的に毎年開催している『そまんずしつくり大会』が12月18日、別府地区公民館のグラウンドで行われ、校区の老若男女182人が参加しました。そまんずしとは、そば(そま)の入った雑煮のような料理です。

白澤良一地区公民館長によると、別府地区は昔、そばの栽培が盛んな地域で、どこの家庭でも自家製そば粉を使ったそば打ちや、そまんずし作りが頻りに行われていたそうです。そばの栽培は、今ではほとんど見られませんが、郷土の歴史を子どもたちに知ってもらい、受け継いでほしいという理由からこの行事が始まったそうです。

今年で10回目を数えるということもあって、火おこし、そば団子作り、野菜切りなどの役割分担が自然になされ、作業は順調に進んでいきました。できあがると、熱々のそまんずしをほおばり、みんな2、3杯とおかわりをしていき、用意された3つの大釜はすべて空っぽになりました。



110番は 急がず 慌てず 冷静に ～110番の日イベントで少年少女剣士が活躍

■1月10日の110番の日に合わせて、タイヨー枕崎店駐車場で早く正確な通報を啓発するイベントが行われました。イベントでは、枕崎警察署員をはじめ、枕崎剣道スポーツ少年団の少年少女剣士やすんくじらブラザーズバンド、枕崎中央交番連絡協議会の方々などが参加し、110番のかけ方のチラシなどを買い物客らに配りました。



若い力で水産業を活性化

～『里海を守り、拓く人材育成プロジェクト』成果発表会

■鹿児島水産高校は、平成21・22年度、文部科学省と水産庁の共同事業で、地域の漁業・水産業を担う専門的職業人を育成することを目的とした『担い手育成プロジェクト』の実施校として指定を受けています。その成果発表会が12月17日、同校の体育館で行われました。

プロジェクトでは、生徒210人(全校生徒の約8割)がごち網、定置網やかつお節作り、サンゴ保全のためのオニヒトデ駆除など26のプログラムに分かれ、事業所など実際の現場で実習を行いました。

発表会で生徒らは、実習内容や感想を堂々と発表していました。中には、実習先の事業所や同業種を今後の進路希望の選択肢の1つとして考えるようになった生徒もいるなど、今後の水産業を担う若い世代にとって、水産業への理解を深める貴重な体験となりました。



大原へ 期待を胸に出航

～鹿児島水産高校『薩摩青雲丸』がハワイ沖へ

■鹿児島水産高校の実習船『薩摩青雲丸』の出航式が1月12日、枕崎港外港で行われました。

今回の航海には、海洋科と専攻科の生徒合わせて22人が乗船。約70日のハワイ沖への遠洋航海で、マグロはえ縄漁や海洋観測を行い、ハワイに入港し国際感覚を磨いた後、3月23日に帰港してマグロを水揚げする予定です。

式では実習生を代表して松岡勇介くん(2年)が「精神的にも大きくなって帰ってきます」と決意を述べました。